



< 目次 > 新年号

1	新年に思う、防災・減災の熱い思いを伝えるために .....あいち防災リーダー会 会長	早川澄男
2	新年にあたって.....	西尾張ブロック代表 伊藤善之
3	第3回あいち防災リーダー養成塾修了.....	塾長 早川澄男
4	E-ディフェンス 兵庫耐震工学研究センター見学 .....	一宮支部 伊藤善之
5	こうなん市民まつりでの防災啓発.....	江南支部 尾関 博
6	犬山市産業振興祭での防災啓発活動について .....	犬山支部 高木 優
7	いなざわ福祉まつりに参加して.....	稲沢支部 村松功雄
8	一宮でのHUG（避難所運営ゲーム）講習に参加して .....	一宮支部 佐藤忠悟
9	防災よもやま話 30名古屋のまちの足元を絵から読み解く .....	名古屋大学大学院教授 福和伸夫
10	お知らせ・掲示板	

**1 新年に思う、防災・減災の熱い思いを伝えるために**

あいち防災リーダー会 会長 早川 澄男

新年明けましておめでとうございます。

皆様方のお陰で新しい年を迎えることができたこと感謝申し上げます。

あいち防災リーダー会の地域での活動の姿がより具体的に観えるようになってまいりました。会員の方々自身の活動はじめ他団体の方と一緒に活動されている姿が伝わってくるようになりました。ご活躍に敬意と感謝申し上げます。

昨年は中日新聞募集掲載のお陰で「あいち防災リーダー養成塾」も100名以上の応募があり、85名の方が修了し、50名の方がAPLAに加入していただきました（現在



600名を超える会員)ので、皆様方と一緒に地域防災力向上のために活動していただくことを期待しています。引き続き皆様のご支援ご指導よろしくお願いいたします。

昨年は、APLAにも大きな動きがありました。会員の高齢化も進み、会員の増強及び若手育成の声が大きく上がりました。育成と支援の両輪でのパワーアップ策として、「NPO法人あいち防災リーダー育成支援ネット」を設立。より専門的な立場で活動支援を担当していただくようになりました。

また、「愛知県の防災や減災活動が元気だ」という声が全国に広がり、松本市からは防災連合会より、「視察と地域防災活動について」、JICAからは、タイ国防災研修「地域防災」等の研修対応の要請を受けました。

こういう機会を通じて、改めてAPLAの活動を見つめる機会が得られ、更に地域防災力向上活動の輪が広がってゆきました。2月には、松本市での「市民シンポジウム」への支援参加要請も舞い込んでいます。一昨年からは静岡、岐阜、三重そして長野、海外へも防災・減災の輪が広がってゆくことでしょう。防災・減災に県境も国境もないということです。

さて、今年、「濃尾地震から120年」東海地震単独説よりも東海・東南海・南海地震との連動説が有力ともなり、その対応が急務となってまいりました。そのためには、地盤を知らしめ、耐震化診断の進めを、その結果から家の耐震化、且つ家具の転倒防止をしなければ「自分の命は、守れないこと」を推進してゆきたい。

そのため平成23年度活動計画としては、「木造家屋の耐震化と家具転倒防止活動」他団体との連携も昨年に引き続き活動を進めて行きたいと考えています。とくに耐震化アドバイザーとの連携強化を進めてゆきます。

また、昨今の豪雨災害対応として、「みずからつくる手づくりハザードマップ」事業支援などを核に防災・減災の輪を広げてゆきたいと考えています。

皆様にとっても、本年もより充実した1年でありますように祈念申し上げます。

## 2 新年にあたって

西尾張ブロック代表 伊藤 善之

あけましておめでとうございます。2011年の年頭にあたりご挨拶申し上げます。昨年も海外では大きな地震や水害が起こり、日本でも水害では大変な被害が発生しました。いつ何時大きな災害が起きるかわかりません。



昨年は、東海豪雨10年を迎えて各地でいろいろな行事、東海豪雨10年オープニング庄内川新川復興視察、名古屋川中学区水防災訓練・一泊避難所体験、防災フェスタ in 久屋大通、りばーぴあ庄内川2010などが行なわれました。

更に4月に“特定非営利活動法人あいち防災リーダー育成支援ネット”が発足し、主に学校中心の防災訓練や防災啓発を実施してきました。そして「あいち防災リーダー塾」では4日間を100名程の方が受講され、西尾張ブロックには10名の方が入会されました。新入会員の方おめでとうございます。防災減災活動は一人ではできず、仲間と一緒に地元など周囲にその想いを広めていくことが重要です。一緒に頑張りましょう。

ブロックでは、避難所運営ゲーム（HUG）の勉強会を行い、避難所運営の難しさを知りました。APLAのメーリングリストを新しく更新したので、アドレス登録などの勉強会も実施しました。ブロックでは年に数回の研修会を開催しています。

更に支部でのイベントなどの活動に対して、年1回ブロックが人的・資金的支援を行っており、6支部が支援を受けられました。その中で自主防災会に対し避難所運営ゲームの講習会を実施された支部がありましたが、地元の方々に避難所運営の難しさを知っていただく良い機会となりました。

2011年はブロックとして、避難所運営ゲームやクロスロードゲーム（分かれ道）などを勉強しながら、地元にも広げていきたいと思えます。また愛知県河川課では23年度～27年度の5年間に亘って、水害に対するハザードマップづくりに支援金を出すという活動を始められます。該当される地域においては、地元町内会と協議の上この活動に参加されることを望みます。皆様のご家族ともども健康に過ごされ、防災減災活動に楽しみながら参加されることを心よりお願い申し上げます。

### 3 第3回あいち防災リーダー養成塾修了 塾長 早川 澄男 (あいち防災リーダー会 会長)

第3回あいち防災リーダー養成塾を9月19日(日)福和名大大学院教授の「防災総論」で講座スタート。最終日の6日目は、11月27日(土)自主防災組織活性化演習にて修了。全体講座2日間と地域講座を2日間の合計4日間の講座。

今年は、中日新聞の掲載のお陰で100名以上の受講申し込みがありましたが、全日程修了者は85名。未受講講座は、来年度受講提案（昨年度の方も6名受講していただきました）。

座学＋ 実践啓発の仕方＋ ワークショップの3部構成で企画。

前年度受講生のアンケート（改善と提言）から、前年度企画を見直して計画。

座学では、初日に福和教授から防災の心得として一括を入れていただき、2日目に



気象情報の活用を気象台から、8月末豪雨災害とその後の取り組みを岡崎市から、講話をいただく。

実線啓発としては、耐震化と家具固定法を耐震化アドバイザーから、災害ボラ活動は太田理事長から、県防災局からは防災学習システムを、そして紙ぶるるやストロークハウスによる耐震化啓発の仕方や、ガラス飛散防止フィルム貼り啓発には紙スリッパを、啓発資材や啓発道具により啓発の仕方を学んでいただいた。

最後は、いかに地域の防災力を高められるかは、ワークショップから、皆さんの知恵をいただくかを、災害図上訓練（DIG）と自主防災組織の活性化演習を2日間で学習。



最後は、グループ毎に「これからは、するぞ！」の、力強いシュプレヒコール（塾長としてこの瞬間を味わいたく、また来年も企画するぞ！と）。またグループによっては、引き続き交流を深めようと次に逢う日程も決められたグループもあり、防災・減災活動の熱い思いの輪がまた増えてことにも感謝。これが私の思い。

一人では中々出来ないことも熱い思いの仲間がいれば、教えあい、励ましあってボランティア活動が進められると思っています。

6日間いろいろな方にお世話になり、またお力添えもいただき、来年の企画へのパワーもいただきました。皆さんに感謝！感謝！

また、受講者の6割以上の50名があいち防災リーダー会に入会していただきました。お陰で会員が605名となり、入会者の中に若い人たちが増えたのは嬉しい限りです。後継者へのバトンタッチも考えて行動させていただきます。一緒に防災・減災活動に邁進できること感謝申し上げます。







## 4 E - ディフェンス 兵庫耐震工学研究センター見学

ブロック代表 伊藤 善之(一宮支部)

11月11日レスキューストックヤード主催の研修として、E - ディフェンスの見学に37名が参加しました。APLAから17名、西尾張ブロックから稲沢の安田さんと2名で参加いたしました。

レスキューストックヤードの事務所前を8時30分に観光バスで出発し、バス内で主催者の挨拶や見学概要の説明を受け、その後ビデオの紹介があった。途中草津PAで休憩、淡河PAで昼食をとった。

兵庫県三木市にあるE - ディフェンス - 兵庫耐震工学研究センターには、12時30分頃到着した。センターの中山学研究員により、センター内を案内してもらい、鉄筋コンクリート製3階建ての無補強と補強有の実験、軸組構法の3階建て木造住宅の無補強と補強有の実験、21階建て高層ビルの免震構造物の耐震実験、今回の木造2階建て校舎の無補強の実験などの結果の説明を受けた。いずれの実験物も無補強のものの被害状況は甚大であった。その後実験場の中に入り3階まで案内された。

実験場は大変大きく、震動台は15m×20mで、水平加振機X方向5本、Y方向5本、垂直加振機Z方向14本を持ち、最大質量1200トン、最大加速度900galなどの基本性能を持っています。

実験物は木造2階建て校舎(兵庫県高砂市宝殿中学校昭和38年築)の補強有であった。14時頃最初の実験として、X方向600galの加振が行なわれた。震度は6弱のレベルである。実験時間は42秒ほどであった。建物はかなり揺れたが結果は若干の歪みがみられた程であった。2度目の実験は三次元方向で加振力は弱いもので、表面上の損傷はなかったようだ。次の実験は17時からなので、数名の方のみが残り、14時30分に残りの人々は帰宅の途についた。帰りも順調で18時20分に出発時の場所に到着した。



無補強の校舎(実験時はすじかいなし)



補強有の校舎(今回の実験物)

## 5 こうなん市民まつりでの防災啓発

江南支部 尾関 博

平成15年から8回目、こうなん市民まつりでの防災啓発活動を行ってきました。私たちが「あいち防災リーダー江南」を立ち上げた時から、一大イベントとして自分達に何ができるか、どんなことをすれば市民に受け入れられ、市民が関心を持ってくれるかを考え、また、毎年同じ啓発活動では自分たちのテントには足を向けてもらえないのではと考え、前年好評だったものは今年も行い、さらに新しい出し物をもとって行ってきました。

今年も10月2日・3日の2日間、市民まつりに参加した多くの市民の方々に、いつ発災しても不思議ではないと言われている東海・東南海地震の連動も視野に入れた地震災害について、減災をするための啓発活動を行いました。

この啓発活動は西尾張ブロックの研修（支援）事業の一環であるため、他の市町のリーダーも参加されると期待しながら行いました。今年の見玉は矢作建設のウッドピタを中心に、建物の耐震診断・耐震改修を建物模型（ぶるる）を使用して行ったことです。また、子どもたちには愛知県の防災キャラクター「ナマズン」等、8種類の塗り絵を用意し「ラミネート加工」して持ち帰ってもらうために、このコーナーは大変盛況でした。その他にヨーヨーつり・非常持ち出し品および備蓄品の展示コーナー、住宅火災報知機の設置案内、各種防災減殺に関する啓発リーフレット等の配布説明を行いました。

当日はまずまずの天候で、全体の入場者数は2日間で3～4万人あり、テントには多くの方が来てくれて大盛況で、用意していた数が終了してしまい、今年も予定時間より早く終了しなければなりません。年々、リーダー会のブースには大勢の市民が来られ、防災に市民の関心が少しずつではあるが高まってきていると実感しています。

あいち防災リーダー会からは、犬山・扶桑支部の高木さん・上原さん・河村さんがここ数年お手伝いに来ていただき防災啓発活動をされ、塗り絵等のお手伝いをさせていただきました。大変ありがとうございました。

来年も、こうなん市民まつりには啓発活動を行う予定です。今回参加されなかった方も是非来ていただき、江南の防災リーダーと一緒に啓発活動を試みませんか。



## 6 犬山市産業振興祭での防災啓発活動について 犬山支部 高木 優

犬山市内の各種産業が一堂に会して、市民の皆さんにアピールするまつり「犬山市産業振興祭」が10月9日（土）・10日（日）の2日間にわたって犬山市文化会館、犬山市南部公民館の駐車場一帯で開催されました。



この産業振興祭では、多数の市民の方々が「商う側」、「買い手側」で参加されます。今回、祭に初めて参加することができたのは、犬山市社会福祉協議会の好意により会場を私達あいち防災リーダー会のために一日貸与（9日・土）してくれ、「防災啓発活動」の後援をしていただいたお陰であります。

会場の提供をしていただいた社会福祉協議会からは何の注文もなかったが、唯一つだけ子ども向けの防災コーナーで楽しんで勉強できるがテーマでした。

開催当日は、あいにく朝から雨脚の強い日でしたので、会場への防災グッズの運搬、そして荷降ろしに苦労しましたが、開始予定時刻までに会場設営も完了できました。

こんな天気でしたので、私たちのブースに子ども連れの来客があるかと心配しましたが、たくさんの方に来ていただけました。当日の参加者は計250人で、内訳は子ども150人に大人100人ほどでした。

啓発活動の内容としては、次のようなことをしました。

#### <子供向け>

- 1、幼児から小学校低学年を対象に、あいち防災キャラクター「ナマズンくん」を含む異なる塗り絵の中から好きな図柄を選んで塗っていただいたものを「ラミネート加工」をして、下敷きとして使えるようにしてお渡ししました。大好評でした。
- 2、保育園・幼稚園の年長、小学生を対象に、建物の「耐震診断・耐震改修」の大切さを勉強してもらうために、ストローとゼムクリップを使用してストローハウスを作成する。「塗り絵」も「ストローハウス」も大人気で、大勢の子どもが楽しんで学習してくれました。

#### <お父さん、お母さん向け>

- 1、非常持出品、備蓄品の展示説明コーナー  
市販の防災グッズを展示して、非常持出と備蓄の違いを説明して理解をしてもらう。
- 2、「犬山市安心情報メール」の配信サービスについて案内をする。
- 3、防災、減災のパンフレットの配布。



#### 今回のまとめ

話をすると地震に対する反応が早い。両親の日ごろの会話、教育がそうさせているのか。今回もそうであるが、子供たちを含めた自主防災会で防災講話をしていて思うことは、やはり低年齢期からの防災教育が大変に重要であると感じた次第です。





## 7 いなざわ福祉まつりに参加して

稲沢支部 村松 功雄

稲沢市勤労福祉会館・総合体育館において、稲沢市・稲沢社会福祉協議会の主催で11月20日(土)・21日(日)に「いなざわ福祉まつりが開催されました。

「防災ボランティア稲沢」の参加活動について報告いたします。

防災クイズ初級コースを小学生から保護者まで広い年齢層にチャレンジしていただきました。間違えた問題については理由を説明して、対話形式で防災啓発を実施しています。問題用紙は持ち帰りいただき、家族で問題を解くことで防災について話し合うきっかけになればと考えています。

非常持ち出し品、発災時生活必需品の展示と説明啓蒙を実施した。

防災マップ掲示により、居住地域の発災時危険性の資格認識につとめた。

参加体験型として、紙パイプによる家屋の耐震強度を小学生を主に楽しく体験していただいた。

今後の課題など

今回の会場は広くて、チャリティーバザー・各種ボランティアグループも多く、いかに来場者に「防災ボランティア稲沢」ブースに立ち寄りいただくようひきつける



工夫が必要と感じた。

また、家具固定など実体験することを取り入れて、家具固定の実施率の向上につながる啓蒙・啓発を展開する活動を取り入れるため、まず防災リーダーが率先して家具固定の実技訓練を受ける計画を立案し、1月に実施予定で現在準備しています。

## 8 一宮でのHUG（避難所運営ゲーム）講習に参加して

一宮支部 佐藤 忠悟

11月21日に一宮市消防署において、あいち防災いちのみやリーダー会主催・一宮防災ボランティアネットワーク共催のHUG講習会が開催された。APLA会員が13名、他2名計15名が参加しました。今回は、「避難所運営とは、どのようなものか？」をゲームを通して経験しましょう」とのテーマで一宮としては初めての講習内容でした。私はファシリテーターとして参加しました。

伊藤支部長の挨拶の後、3つのグループに分かれファシリテーターの自己紹介、HUG





講習の概要〔HUGは、H(hinanzyo 避難所) U(unei 運営) G(game ゲーム)の頭文字を取ったもので、英語で「抱きしめる」という意味もある。避難者の年齢や性別、国籍やそれぞれが抱える事情が書かれたカードを、避難所の体育館や教室に見立てた平面図にどれだけ適切に配置できるか、また避難所で起こる様々な出来事にどう対応していくかを模擬体験するゲームである〕や設定条件の説明後、各グループリーダー選定、各グループに配布された資料の確認、教室・校庭・体育館の配置などを確認後、アイスブレイキングでメンバー相互の自己紹介などでリラックスした。

内容は、リーダーによるカードの読み上げにより、HUGが始められた。読み上げのカード枚数は時間の都合で規定(250枚)の半分の125枚とした。カードには全壊・半壊や全焼の家族、テントを校庭に張りたい家族、知的障害者や妊婦や急病人を持つ家族たち、ペットを持ち込む家族、両親を亡くした孤児たち、百歳以上の高齢者、外国人、国内旅行者などのさまざまな条件の避難者、仮設トイレ・食料・水・毛布などの供給、安否確認、マスコミへの対応など種々のものが書かれており、この取扱いを直ちに決めて教室・校庭・体育館のいずれかに配置していかなければならない。すぐに判断できないものもいくつかあった。グループによっては、避難者を地区割りに体育館などに割り当てるよう、カードを予め地区割りに分配しているところもあった。ゲームが終わった後、グループ内でHUGについて意見交換を行い、更に感想にまとめた。

主な感想として、

運営組織、人員配置が重要、運営スタッフの長には町内会長や役員などを充当すべき。

HUGは一人の人が知っているだけでは力にならない。自助・共助の大切さを出来るだけ多くの人々に知ってもらう必要がある。

体育館や教室に振り分けるための層別が必要だ。

トイレ対策、ペット対策、ゴミ対策などルール作りが必要。

避難所運営マニュアルの整備を行い、町内会にPRすることが必要。

(運営マニュアルの設定やルール作りが必要である。) など



HUGは9時から始め、後片付けを含めて11時半まで行なわれた。

最初はこの講習の意義について、疑問を持っている人もおられたが、体験して疑問がかなり解消できたと語っておられた人もいた。私としては、多くの一般者の参加を含めて、実際に学校で実地訓練が出来るよう進めたら・・・と感じた。又、やりましょう、いざという時に混乱しないように、防災リーダーとして。

## 9 防災よもやま話 No.30 名古屋のまちの足元を絵から読み解く

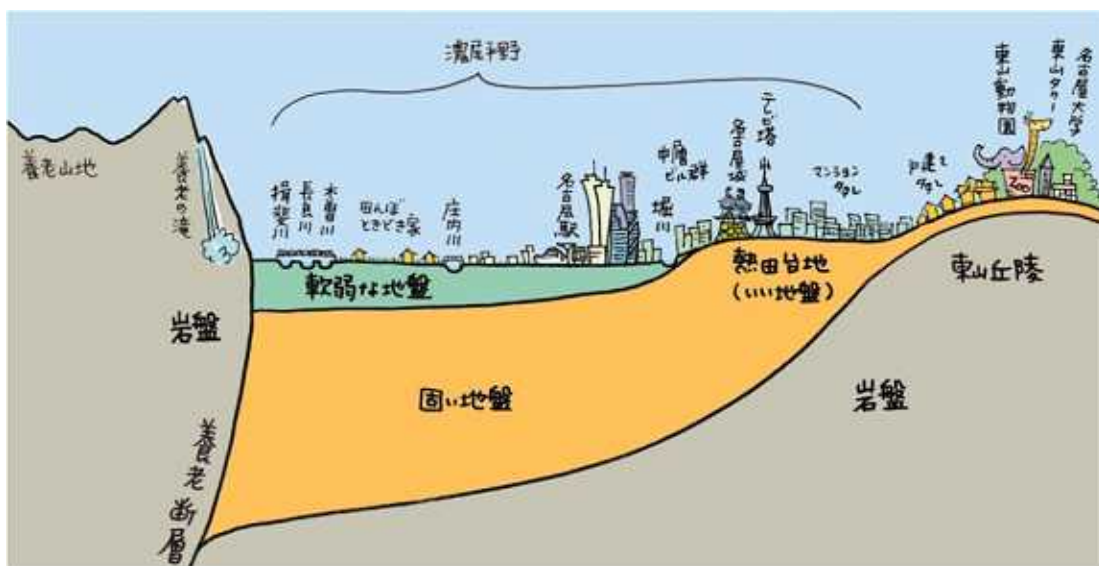
名古屋大学大学院教授 福和 伸夫

APLAの皆さん、こんにちは。

秋は、一年でもっとも防災イベントの多い時期だと思います。みなさんも様々な活動をされたことと思います。さて、最近、私の周辺で一つの大きな変化がありました。TVや新聞などでも紹介されましたので、目にされた方もいらっしゃるかもしれませんが、12月1日に名古屋大学に新たに減災連携研究センターが設置されました。このセンターは、私ども大学研究者が様々な方々と連携しながら、地域の一員として災害軽減を実現することを目指した組織です。現在は、名古屋大学の学内措置として、研究センターという器を用意してもらい、私ども教員は、現在の所属と兼務する形で、センターに所属することになります。まだしばらく準備期間が続きますが、リーダー会の方々にもご協力いただきながら、産官学民の様々な担い手の方々と連携協力して、安全なまちづくりに貢献していきたいと考えております。従来よりも、皆さまへの支援がしやすい環境を整えることができると考えています。センターの詳細については、いずれまた、紹介をさせていただきますのでよろしくお願いいたします。

さて、本日は、下記の一枚の絵を通して、私たちが住んでいる名古屋の特徴について考えてみたいと思います。下の図は、養老山地～東山を東西に切った断面をマンガ風にしたものです。左（西）に養老の山が、右（東）に東山公園があり、その間に、盆地のように平らな場所（濃尾平野）があります。西には軟弱な地盤（沖積低地）が広がり、東には比較的固い台地（洪積台地）が広がっています。そして、養老には養老の滝が、東山丘陵には東山動物園があります。なぜこのような地盤や地形ができたのでしょうか？

その秘密は、濃尾平野の西端にある養老断層にあります。



養老断層は我が国で最も立派な断層の一つで、養老・桑名・四日市と断層が続きます



養老の山は1000m程度で、山の上からは貝殻なども出るようです。一方、濃尾平野の西端の基盤の深さは2000mを超えます。すなわち、養老断層では3000mもの段差ができていくことになります。3m程度の段差を作るマグニチュード7.5程度の地震が、1000年程度の間隔で1000回ほど起きれば、この程度の段差を作ることができます。最近の調査では、過去2回の地震は、1586年の天正地震と745年の天平地震に該当する可能性が高いことが指摘されています。

たび重なる地震で、断層の西に崖ができ、養老の滝が作られました。一方で断層の東はどんどん低くなっていき、基盤は西の方が傾く濃尾傾動とよばれる運動が生じました。そして、傾いた基盤の上に土砂が堆積しました。この場所には、数百万年前には東海湖と呼ばれる巨大な湖がありました。湖の底にたまった泥や砂が東海層群と呼ばれる地層を作りました。その上に洪積層が乗っています。氷河期が繰り返したために、砂や粘土や礫が交互に堆積しています。堀川より東は、この洪積層からなる台地となっており、さらに東山丘陵へと続きます。一方、堀川より西では、洪積層の上に、かつての海の中で沈殿した泥や木曾三川や庄内側などが運んできた砂が重なって沖積層がのっています。この沖積低地は、海拔ゼロメートル地帯となっています。

木曾川や庄内川などの流路をみると、面白いことに気付きます。いずれも西に流れてきた川が、途中で流路を変えて南に流れ下ります。水は低きに流れます。濃尾平野は西南部ほど海拔が低いことが分かります。木曾三川が養老山地にへばりつくように流れているのにはこのような理由があります。

さて、今年、名古屋開府400年です。徳川家康は、400年前に災害危険度の高い清須から、名古屋に城を移しました。これを清須越しと言うようです。名古屋城の位置するところは、洪積台地の熱田台地の北西端に当たります。台地の南端には熱田神宮が位置します。名古屋城の北にはかつての矢田川が削った崖があります。そして台地西側と沖積低地の境には、堀川を開削しました。城の北と西は葦原で、崖と堀川が境する要害となりました。そして、城の南東の台地上に、武家屋敷や寺社、町屋を配し、逆三角形の城下を作りました。それゆえに、名古屋が誇る金さん銀さん(名古屋城とテレビ塔)、熱田神宮はいずれも熱田台地の上にあります。

明治期に入って、1886年には名古屋駅が開業し、1889年には名古屋市が誕生します。名古屋駅のある場所は、かつては葦原が広がっていました。駅の敷地の造成のため、駅周辺の地盤を掘り返し、土盛りをしたようです。そのため、駅ができたときには、土を掘ったことによる池が沢山できていたようです。高層ビルが林立する今の風景からは、想像が付きません。さらに、1907年には、名古屋港が開港しました。江戸時代には「宮の渡」として熱田に港がありましたが、庄内川や木曾川などに運ばれる熱田の港は遠浅だったため、明治期になって干拓・埋め立てが進みました。このようにしてまちが拡大し、市制が引かれた時には16万人程度だった市の人口はどんどん増加し、現在では220万人を超える人が住んでいます。まちは、市内のみならず、周辺市町村にまで拡大していま



す。そして、名古屋市内は、220万人の人を収容するために、建物が高層化し、密集することになりました。

図のように、熱田台地の上には、多くのビルが建ち並び、名古屋城やテレビ塔も埋没するようになってしまいました。また、堀川の左（西）側の地盤が軟弱な低地にある名古屋駅の周辺には数多くの高層ビルが建っています。そしてその左側にまで家屋が密集して広がっています。一方、図の右側の東山丘陵地も宅地造成され、多くの家屋が建っています。かつては郊外に位置していた東山公園も、今ではまちに飲み込まれてしまいました。熱田台地の上に、1～2階建ての木造家屋が建っていた明治期までの名古屋のまちとは様変わりです。軟弱な地盤への立地、家屋の密集と高層化、など、災害の危険度は増しているように感じられます。

そんなことを、この一枚の絵から学び取ることができます。この絵は、防災ボランティア活動もされている安城出身で宮古島にお住まいのイラストレーター・山田光さんをお願いして書いていただいたものです。次回以降も、光さんの絵を通して、私たちの身の回りについて考えてみたいと思います。

## 9 お知らせ・掲示板

### 22年度 西尾張ブロックの総会開催予定日

平成23年3月19日(土) 午後からを予定

会場・時間など、詳細は追ってご案内いたします。

今から日程の調整をして、是非ともご参加ください。

### 2010年度 ボランティアのつどい(犬山市)

日時 平成23年2月5日(土) 9:00～14:00

場所 犬山市福祉会館 5階 大ホール 参加費無料

体験発表「能登半島地震の被災現場からの報告」輪島市 七尾幸子氏 他講演等

詳細は 0568-61-2563 犬山市社会福祉協議会ボランティアセンターへ

### 編集後記

すがすがしい新年をお迎えのこととお喜び申し上げます。APLAの活動も、防災・減災を合言葉に内容が多岐にわたり、災害に強いまちづくりへと発展してきています。この広報紙が皆様の参考となり、お役に立てることを願っています。広報 森千代子